



## 友を思う心

朝から健二君が教室でため息をついていました。それを見た翔太君が、どうしたのかと尋ねます。すると、健二君は靴下を間違えたのだと答えました。今日は中学校の入学説明会。6年生は白の靴下に揃えることになっていたのですが、すっかり忘れていて普段通りの靴下で登校したのです。

「それなら僕が2足持っているので貸してあげるよ。」と翔太君は、ランドセルから白い靴下を取り出し、渡しました。朝から思いっきりサッカーをして遊びたい翔太君は、靴下が汚れたらいけないからと、白い靴下を別に持ってきたのです。それに、ロッカーにもう一足、白の靴下が置いてあるといいます。健二君は喜んで借りることにしました。

ところが、朝の活動後、白い靴下を忘れたということで翔太君が先生から注意を受けています。それを見た健二君が思わず先生に話しかけようと思いました。しかし、翔太君が指を唇に当てて、黙っているように合図をしたので何も言えませんでした。

後から翔太君に確かめると、ロッカーに予備を置いていると思ったけどなかったということ。それなら靴下を返すという健二君に、「いいから、いいから。」と翔太君は笑顔で答えました。

自分が忘れたのに、翔太君が先生から叱られています。健二君は、どうしても黙っていることができませんでした。そこで、先生の所へ行き話しました。「実は、実は・・・翔太君は悪くないんです。」と高ぶる気持ちを抑えながら涙声で事情を伝えます。先生もその気持ちをしっかりと受け止めてくれました。

それから先生は、翔太君にも話を聞きました。「どうして自分の分がないのに貸したのか？」と尋ねると、笑顔で次のように答えました。

「健二君がとても落ち込んでいたからです。僕は忘れたことをそんなに気にしないし、先生にちょっとぐらい叱られても大丈夫です。」

心温まる話だと思いませんか。仮名にしてありますが、昨年度、城東小で実際にあった出来事です。

落ち込む友達を見て心配する心、自分なら少々叱られても平気だというたくましさ。また、その友達の心を受け止め、誠実に話す心。互いに思いやる心が本当に素敵ですね。